



気候変動に対応した 雨水排水対策等

菊地 忍



問 近年、地球温暖化等に伴う気候変動により世界各地で甚大な災害が多発している。地球温暖化に起因する気候変動が周知の事実となる中、本市の雨水排水対策等について、市内全域の水路図を作成して提示してはどうか。また、岩沼市内の水路がどのように流れているのかを議員も住民もしっかりと把握することも対策の一つと考えるが、見解を伺う。

建設部長 今後の防災対策という視点から考えると、市内の雨水排水の幹線の系統図とかを市民の方に理解していただくことが、それぞれの防災につながると思います。市のハザードマップと同じように、できるだけホームページ等で公表していきたいと考えます。

今後の大雨に対する対策

問 地球温暖化に伴う気候変動により、今後も大雨が予想されるが、今後の大雨に対しての対策と方針について伺う。

建設部長 超大型で非常に強い台風19号により、市内の至るところ

が浸水しています。被害を軽減するためには、五間堀川の水量を調整する分水路及び排水機場、さらには押分排水ポンプの整備を早期に着手してもらうよう、国や宮城県に強く要望し、市の内水対策の根本的解決を図っていききたいと考えます。

問 水害対策を考える上で、やはり二酸化炭素削減対策も考えながら、雨水対策を考えていかなければいけないと考えるが、市長の見解を伺う。

市長 地球温暖化と排水対策の関連性について、今後の対策を岩沼市として、温室効果ガスを削減するなど、できるだけその負荷をかけるないという方法をこれからどんどん取り入れていく必要があると思います。そして、全国あるいは世界にそういう機運が高まることを期待していきます。



台風19号への対応と 水害対策

渡辺ふさ子



問 道路・水路被害は西部地区を中心とした43カ所で被害を確認し、16カ所が国の災害復旧事業（1カ所当たり60万円以上）に該当する可能性があるとの報告があった。状況、内容を伺う。

建設部長 道路被害は、のり面崩壊2件、路肩崩れ2件、舗装隆起、舗装の被害1件の5件です。河川は河岸の洗掘などが主な被害で、他は、河床の堆積2件の11件です。

一部損壊認定は弾力的に

問 床上浸水について、政府は被災者の生活と事業の再建に向けた「対策パッケージ」を決めた。これまでは半壊以上だった支援対象に新たに一部損壊（住家の損害割合が10%以上20%未満）を加えた。日本共産党は、被害認定に関して政府に「浸水の深さで機械的に認定するケースがある。住宅の機能に対する被害の程度を正確に反映することを徹底し、弾力的な認定を行うこと」を求めた。市長の被害認定に関する見解を伺う。

市長 大きく前進しているなど感

じました。なりわいの再生や家屋の新築とか、さまざまな部分に影響しますので、国が踏み込んで支援をしていただけることは、本当にありがたいと思います。

問 県が平成26年に計画した五間堀川圏域河川整備計画は、30年間を対象期間としているが、洪水被害の発生状況などにより、適宜見直しを行うものとしている。抜本的な水害対策を求めるべき。志賀沢川の改修計画を急ぎ、上流部から中小河川への流入を防ぐ対策が必要ではないか。また、五間堀川上流工区・四日市場との境界にポンプ場を設置し、西部地区の内水を五間堀に流し込む対策が必要ではないか。

建設部長 要望は毎回、県に伝えていきます。

問 押分排水機場のくみ上げる水量を増やしてはどうか。

土木課長 押分ポンプ場は国で整備することになっており、毎年、阿武隈川の要望に合わせて要望しています。